



「働くこと育てること」より



「絹ばあちゃんと90年の旅」より

写真展に寄せて

落合由利子

「働くこと育てること」は保育雑誌「ちいさいなかま」に1998年から4年間連載した仕事です。乳幼児を抱えながら仕事をする、男性・女性の丸一日に同行する。私自身も乳幼児の子どもを二人育てながらの、等身大で臨んだドキュメンタリーです。たった一日だけど、確実に一生のうちの日、その人のリズムに入れさせてもらう、それはかなりおもしろい経験でした。

目を開き耳を澄ますと、どんな人の中にも物語が詰まっている、ということを実感しました。生きるということはそれだけ大変でおもしろいことなのだ。

「絹ばあちゃんと90年の旅」では、伊豆・天城の山奥に暮らす後藤絹さんを訪ね、日常を共有し、その記憶を旅しました。開拓団として満州に渡り、ソ連侵攻による避難生活で3人の子どもを亡くした絹さんは言います。

「あんた、子どもを亡くした気持ちなんてわかんないだろう。医者に診てもらって死んだんじゃないの。見殺しなんだから。何もできなくて、見ている前で死んでいくんだから。こんな気持ちはわからなくていいよ」と。

「働くこと育てること」で出会った子どもたちは現在、20歳前後になっています。1913年生まれの後藤絹さんは、101歳になりました。

この二つの仕事を並べたとき、時の流れのなか、今生きている時間を確認しながら、日常が放つなにげない輝きが続いていく世の中でありたいと思うのです。



写真家 落合 由利子 プロフィール

日本大学芸術学部写真学科卒。

1989～1992年ベルリンの壁崩壊直後の東欧の人々、ルーマニアの農村を撮影。

「営み」「流れ」「光」をテーマに写真を撮り続けている。

「母の友」(福音館書店)に「戦争は知らないけれど」を好評連載中。

写真展

「日本国ルーマニア物語」(フォーラム横浜)

「働くこと育てること」(横浜女性フォーラムほか全国巡回)

「落合由利子写真展」(滋賀県立水口文化芸術会館)他

著書

「働くこと育てること」(草土文化)

「絹ばあちゃんと90年の旅—幻の旧満州に生きて」(講談社)

共著:「ときをためる暮らし」(自然食通信社)他



あかねの虹保育園(埼玉県所沢市)園長

牧 裕子 プロフィール

東京経済大学卒。働く婦人の労働と子育てに関心を持ち、1966年保育士になる。

こぐま保育園(静岡)、あかね保育園、あかねの風保育園の園長を経て、現在にいたる。

1994～2006年 埼玉県立大学保育科非常勤講師兼務。

著書:「お母さんががんばりすぎないで」(新日本出版) 共著:「保育者と保護者がはぐくむ対話の力」(かもがわ出版)他多数

開催場所

世田谷区立瀬田四丁目広場 旧小坂邸:東京都世田谷区瀬田4-41-21



■ 入場料無料 ■ 休園日 月曜日

■ 開園時間 9:30～16:30

※ 駐車場なし。

※ 駐輪場あり。(坂上の門の横に置く)

■ アクセス

● 東急田園都市線「二子玉川駅」よりバスを利用の場合

成育医療センター行き「玉31」、美術館行き「玉32」→「日産玉川病院」下車、徒歩2分

● 小田急線「成城学園前駅」よりバスを利用の場合

二子玉川駅行き「玉07」→「吉沢」下車、徒歩7～8分

お問い合わせ

瀬田4丁目広場

利活用検討ワークショップ事務局

03-6447-9931

〈せたがや水辺デザインネットワーク内・担当:村上〉

info@setagaya-mizubedesign.org

せたよんフィールドミュージアム 🔍 検索

<http://www.re-forest.com/seta4/>



この活動は「平成26年度世田谷区の地域の絆ネットワーク支援事業」の補助を受けています。

■ 主催: 世田谷区みどりとみず政策担当部 公園緑地課 / 瀬田四丁目広場利活用検討ワークショップ ■ 協力: せたぼん・せたがや水辺の楽校